

## 敬意を持ち「不安」を「安心」に

修士課程 1 年 河野礼子

リハビリ型デイサービス リハサロン祖師谷

玄先生

認知症に対するご講義を温かく優しい語り掛けにてお話頂き、認知症家族介護者として大変感慨深く拝聴させて頂きました。貴重なお話をありがとうございました。

認知症の家族と 30 年以上生活を共にした介護では、敬意を持っていたかは自信がありません。全く病識のないお姑様から「あなたが来るといつも物がなくなる」「あまり役に立たない嫁」「プロの仕事じゃない」と。

時に傷つきながらもご指摘として受容し、昇華するため認知症改善目的のデイサービスを作り、プロになるため看護師資格も取得しました。

診断名は変わらずとも生活障害は環境が変われば改善でき、避けられない介護環境下で唯一できる介護者の考え方と接し方を変えることで生活は安定することを体験しました。

ユマニチュードケアと仏陀の接触も哲学的な支援の重要性を同様に訴えているように感じ、太古から人との関わりに大切なことは不変であるのご講義から学ばせて頂きました。

国立病院機構で登壇される認知症専門医から「こんな状態では独居は無理、施設へ入れなさい」という診断後も、本人希望の独居生活を最小限の介入により満足度が得られ自立を促す支援を目指し、在宅で看取りました。本人の希望を叶え、介護者の尊厳や生活も確保する適切な支援を日本のケアの基本とすることを目指し大学院にて学ばせて頂いています。

沖縄の高齢者の尊厳確保と同じように、人生の大先輩として敬意を持ち「不安」を「安心」に変え認知症改善に繋がるケアの検証をしています。改善のケアは大学院で学んだ生活支援記録法 F-SOAIIP 記録により、ケアやコミュニケーションの根拠を示し、生活障害の困りごとへの個別ケアマニュアルにすることで、周辺症状の対応に困る専門職や家族にも有効な情報共有になると考え研究しています。

認知症の環境不適合症状について、地域での理解を広める居場所や環境を整え、認知症と診断された後の「話の通じない」という先入観や思い違いを解消し、認知症は生活を穏やかにする防衛反応の一つとして生命の神秘であることもお伝えしたいとご講義を受け感じました。複数の看取りに寄り添い、話の通じない状態と言われた後にケアを行い対話が復活し、痛みや恐怖が復活したのではと後悔したこともありました。ご講義でお父様の「今が一番幸せ」というご発言から、そう思ってもらえるなら日常の声かけで覚醒し痛みや苦しみがあっても、寄り添い接触している温かさも感じてもらえ良かったのかもしれないと思うことができました。人生の最終章を少しでも安らかに苦痛の声にも寄り添い、時を共に重ねるケアを目指したいと改めて思いました。人生 120 年をアクティブに楽しめるよう瞑想を取り入れ、心身整えたいと思います。

貴重なご講義を賜り、ありがとうございました。